

ローマ数字で示される境界の呼称

ver. 3.2

- 主な変更内容：ローマ数字で示される詞境界の名前について、動詞と形容詞についてのみ、hyphen minus の代わりに middle dot を使って示す。
- 前提（以下の内容は、3.0 までに説明されている）：
 - 教育ローマ字では、「詞」と呼ぶ基本的な言語単位の組み合わせとして文などのより大きな単位を表すが、それらの詞の構造的な役割はそれらが左右に持つ「詞境界」を述べることによって示される。
 - 例：ni 「に」は左に A1, 右に A2 という境界を持ち（このことを簡単に ni A1|A2 などのように示すことがある¹⁾）、そのため、nara A2|A4 に前接することができる。（ni nara 「になら」という形が可能である。）
 - 例：wo A1|A4 は、ni A1|A2 や nara A2|A4 に後続することができない。（*ni wo, *nara wo などは不可能。）
 - 詞境界には A1, A2, A4 などのように、大文字のアルファベットと算用数字で名前がつけられているものと、m-i, km-iii などのように、小文字のアルファベットとローマ数字で名前がつけられているものがある。詞境界の中でも、前者を特に語境界と呼ぶ。
 - ローマ数字で名前がつけられている詞境界の体系は、従来知られている「品詞」の体系にほぼ相当するもので、例えば、m-i と m-ii は、「名詞」の右側が持つとする境界である。（m は「名詞」の頭文字である。）教育ローマ字の定義上は、名詞とは、特別な特徴によって与えられる分類ではなく、右側に m-i または m-ii を

¹ 過去の資料では、A1A2 ni などのように、順を逆にして、区切り記号を使わないものもある。

持つ詞の通称にすぎない²。これは他の品詞（時名詞、形容名詞、動詞、形容詞）も同様である。

- 教育ローマ字の綴り字上は、語境界はスペースで示すが、それ以外の詞境界は「屈折記号」と称する特別な記号である hyphen minus (-) または middle dot (·) で示す。
- 名詞、時名詞、形容名詞は、その右側の詞境界は hyphen minus (-) で示されるが、動詞と形容詞は middle dot (·) で示される。

- ver. 3.2 における変更内容

- 動詞と形容詞の詞境界の名前を以下の通り改める：
 - 動詞の詞境界: d-i, d-ii, d-iii, d-iv, d-v, d-vi
 - 3.1 では順に: v-i, v-ii, v-iii, v-iv, v-v, v-vi
 - 3.0 では v の代わりに d が使われている（日本語の頭文字を取る命名法を 3.2 で再び採用した）: d-i, d-ii, d-iii, d-iv, d-v, d-vi
 - 2.x では、ローマ数字の順が逆であった: v-vi, v-v, v-iv, v-iii, v-ii, v-i
 - 形容詞の詞境界: k-i, k-ii
 - 動詞の場合と同様、3.0 ではローマ数字の順および頭文字が 3.2 と同様 k であり、3.1 で英語の頭文字 a がとられたが、3.2 では頭文字を再び k とし、また区切り記号として middle dot を用いる
- 同様にして、3.2 で採用される名詞 (m)、時名詞 (tm)、形容名詞 (km) の詞境界の名前は以下の通り：
 - m-i, m-ii

² 近い将来、新たに見つかった境界に m-iii, m-iv といった m- から始まりローマ数字で終わる名前をつけた場合は、それらを右側にもつ詞もまとめて「名詞」と通称されることになると思われる。

- tm-i, tm-ii
- km-i, km-ii, k-iii³
- ver. 3.2 における変更の理由
 - 語境界はアルファベットと算用数字を使って示すが、それ以外の詞境界はアルファベットとローマ数字で示すため、区切り記号がないと見づらい
 - そのため、区切り記号として hyphen minus が使われていたが、これが綴り字に使う屈折記号と共通しているため、屈折記号と区切り記号を一致させることで覚えやすくした
 - なお、3.1 と称して、v·i, v·ii, v·iii ... などのように、アルファベットの方を英語（この場合は verb）の頭文字から取った名前を使ったこともあるが、v がローマ数字と似ているため、3.0 で使われていた d に戻すように改めた⁴

³ km-i, km-ii, km-iii は次の語尾によって特徴づけられる。'(_) -sa km-ii|m-i, -'sou, km-ii|km-i, -'sou, ni km-ii|A2, -na km-i|R2, -ni km-iii|A2, -∅ km-i|C2. これ以外の形容名詞の語尾について、またそれぞれの語尾についてより詳しくは別の資料で述べる。

⁴ 3.1 は以下のツイートのみで告知し、通常行っている、PDF 資料のアップロードとその告知を行うブログ記事の公開は行わなかった。 <https://twitter.com/awesomenewways/status/1490061500035252230>